

危険予測学習の進め方（例） - 踏切横断の危険 -

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (踏切の状況、警報機の状況、周囲の車両の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 遮断機がない踏切にさしかかった。 警報機は鳴っているが、周囲に車両はなく、電車の音も聞こえてこない。(電車の音は、近くに来るまでほとんど聞こえない。)
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・遮断機がない踏切での運転者の心理や、見通しが悪いため、電車の姿を確認せずに音だけで判断することの危険性を考えさせたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「停止線では必ず止まり左右を確認する」「目と耳で確認する」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	<p>① 踏切では、警報機が鳴ってなくても一時停止をして左右の安全確認をする必要がある。(教則第3章第2節2(6)参照) 特に塀などで左右が見にくいところでは、見やすいぎりぎりの位置まで出てしっかり確認する。</p> <p>② ヘッドフォンステレオを聞きながらの運転や、携帯電話を操作しながらの運転、または傘をさしながらの運転は、警報機の音を聞き逃したり、警報機を見逃したりして危険なので絶対にしない。(教則第3章第2節2(11)参照)</p> <p>③ 電車が近づいてくる音は、近くに来るまでほとんど聞こえないため、音だけで判断するのではなく、一時停止の上、必ず目視で確認する。</p> <p>④ 遮断機がある踏切では、警報機が鳴りはじめて遮断機が下りるまでに数秒かかることもあるが、警報機が鳴りはじめたら渡らないようにする。</p> <p>⑤ 道幅が狭い踏切で、対向車が来ている場合は、無理に渡ろうとせず対向車を通してから渡るようにする。</p>
------------	---